

2021年日本バイオインフォマティクス学会年会参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班

森原なぎさ

1. はじめに（目的等）

生命科学研究においては次世代シーケンサーなどの測定技術・機器が急速な進化を遂げており、膨大な量のデータが蓄積されている。しかしながらこれらのデータを網羅的・俯瞰的に解析する技術はまだ十分ではない。近年データを持ち込んで解析を依頼される方が増加しており、データ取得後の解釈部分のニーズが高まっていると感じる。バイオインフォマティクスの基本的な知識を習得することと、日々新たな手法が開発される本分野の情報を収集するため、本年会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和3年9月27日～9月30日

場所：オンライン

3. 参加者等

1046名

4. 研修内容

- ・基調講演
- ・企画セッション
- ・ワークショップ
- ・口頭発表/ハイライト
- ・ポスター発表
- ・受賞記念講演
- ・日本オミックス医学会シンポジウム
- ・キャリアパスセッション
- ・スポンサーセッション
- ・データサイエンティスト養成セッション
- ・一般公開セッション

5. まとめと感想

各研究者が実際にどのようなパイプラインを使用してデータ解析しているかの例が見られ、とても参考になった。また一気に大量の処理を行えるワークフローを使用した解析方法や、近年増加しているシングルセル RNA-seq のデータ解析法、またこれまで無かったターゲットロングリードシーケンステクノロジーについての発表もあり、これらの知識をぜひ今後の研究支援に活かしていきたい。また昨年に引き続きオンライン開催ということもあり、同時刻にあったセミナーを後で録画視

聴することもでき、参加者にとって大変良い取り組みと感じた。